

6. ナギナタガヤ草生栽培におけるモモの樹体生長、果実品質（情報）			
[要約] <u>ナギナタガヤ</u>の<u>草生栽培</u>の初年目には、清耕栽培と比較し、成熟日が若干遅くなり、果実が小さくなる。果実糖度は早生品種では差がないが、中生品種では低くなる場合がある。			
研究室名	果樹研究室 化学研究室	連絡先	0869-55-0276(内線230)

[背景・ねらい]

除草の省力化や有機物の補給などの点で、モモにおいても草生栽培が再度取り組まれようとしているが、養水分の競合や肥料の遅効き懸念されるため、ナギナタガヤの草生栽培がモモの樹体生長、果実品質に及ぼす影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. ナギナタガヤは1年生のイネ科雑草で、播種適期は9月中旬～10月下旬、5月には出穂して倒伏する性質を持つ。
2. 本試験におけるナギナタガヤの生育は旺盛で、地表面を完全に覆った（データ省略）。
3. 生育初期の葉色は対照区より草生区の方が淡く、幼果も小さかった（第1表、第2表）。
4. 葉分析の結果、5月～6月の全窒素は対照区より草生区の方が低かった（第3表）。
5. 土壌中の無機態窒素は草生区の方が4月～6月には低かったが、7月になると高くなった（第1図）。
6. 八幡白鳳、加納岩白桃の成熟は草生区でやや遅れる傾向が認められた。果実の大きさは草生区の方が小さかった。早生種（八幡白鳳、加納岩白桃）の果実糖度には差は認められなかったが、（第4表、第5表）。中生種（まさひめ）では対照区より草生区の方が低かった（第6表）。

以上の結果、岡山県におけるナギナタガヤの草生栽培の初年度では、果実品質に悪影響を及ぼす恐れがあり、注意が必要である。

[成果の活用面・留意点]

1. 草生栽培を連続した場合のモモ樹の生育と果実品質に及ぼす影響について明らかでない。

[具体的データ]

第1表 草生（ササナカヤ）栽培がまさひめの葉色に及ぼす影響

	5/10	6/11
草生区	44.4	42.7
対照区	48.5	44.3

無機成分含量測定に供試した葉

第2表 草生（ササナカヤ）栽培がまさひめの幼果の重さに及ぼす影響

	果実重 (mg) ^a
草生区	160.0
対照区	205.6

有意性

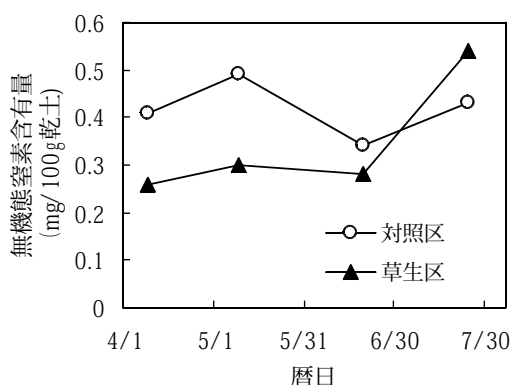
*

*は5%水準で有意差があることを示す

^a4月29日に調査

第3表 草生（ササナカヤ）栽培がまさひめの葉中無機成分含量に及ぼす影響

	全窒素(乾物%)		P 乾物%		K 乾物%		Ca 乾物%		Mg 乾物%	
	5/10	6/11	5/10	6/11	5/10	6/11	5/10	6/11	5/10	6/11
草生区	3.01	2.87	0.25	0.19	1.67	2.40	1.33	1.81	0.35	0.36
対照区	3.48	3.10	0.24	0.20	1.87	2.59	1.24	1.39	0.35	0.33



第1図 草生栽培が土壌の無機態窒素含有量に及ぼす影響

第4表 草生（ササナカヤ）栽培が八幡白鳳の成熟と果実品質に及ぼす影響

区	平均成熟日(月/日)	果実重(g)	Brix
草生区	7/9	219	13.6
対照区	7/9	240	13.8

有意性

n. s.

*

n. s.

*は5%水準で有意差があることを示す

第5表 草生（ササナカヤ）栽培が加納岩白桃の成熟と果実品質に及ぼす影響

区	平均成熟日(月/日)	果実重(g)	Brix
草生区	7/10	222	13.8
対照区	7/9	250	13.3

有意性

n. s.

*

n. s.

*は5%水準で有意差があることを示す

第6表 草生（ササナカヤ）栽培がまさひめの成熟と果実品質に及ぼす影響

	平均成熟日(月/日)	果実重(g)	Brix
草生区	7/31	267	12.6
対照区	7/29	299	14.1

有意性

n. s.

*

*

*は5%水準で有意差があることを示す

[その他]

試験研究課題・事業名：高糖度モモ生産のための栽培管理指標の策定

予算区分：県単

研究期間：平成9年～13年度

関連情報：なし